

## 1 研究主題

自ら進路選択のできる生徒の育成をめざす進路指導  
—進路選択に役立つ進路学習を通して—

## 2 はじめに

生徒の進路をめぐる環境や意識は大きく変化している。中学校における進路指導もその変化に対応することが強く望まれている。「働くこと」「学ぶこと」は、中学校3年間における進路指導の大きなテーマである。現在の自己を見つめ、将来の自分を思い描いて努力することは、生き方指導面から重要な課題でとなっている。小牧市進路指導教育研究会では、「自ら進路選択のできる生徒の育成」をめざし、ここ数年間にわたり研究を続けている。

生徒個々の将来の夢が単に夢で終わらないように、より支援できる進路情報のあり方を求めていきたいと考え、研究を継続していきたい。

## 3 研究のねらい

現在、高等学校や専修学校の教育方針、学科、コースなどが多様化し、生徒が進路選択する上での幅が広がっている。しかし、たくさんある選択肢の中から、それらを吟味し、適切に選択することができない生徒がいるのも現状である。また、自分の将来について具体的に考えられない生徒も多く、体験入学や学校見学に参加の意欲を示さない生徒もいる。

そこで、多くの進路情報を生徒が得る中で、生徒自身が「行きたい」と主体的に考えて進路選択をするための進路情報のあり方と、それをいかにタイムリーに提供する手立てを検討したいと考えた。さらに進路指導を通して、困難に屈することなく立ち向かうことができ、心豊かな素敵な大人になってほしいと願った。

生徒への進路情報の提供として、進路説明会、体験入学、各種資料の配付などをこれまで行ってきた。各校で行われている進路行事の持ち方や、各学年での進路学習等について検討することを通して、生徒が進路選択する上で、より有効な手立てを考察したいと考え、研究に取り組んだ。

## 4 実践と考察

### (1) 各種進路学習等の資料の収集と協議

小牧市内各校で行われている進路行事や進路学習等の資料を持ち寄り、情報交換と協議を行った。進路説明会の持ち方に関する資料、1年間の進路の流れを見通すための資料など、主に進学に関する資料だけでなく、1年生から3年生までの進路学習の積み上げについての報告など、系統的な進路学習

に関する報告もなされた。

各校の情報を共有することにより、今年度初めて進路指導主事を経験する教員だけでなく、進路指導主事を経験したことがある教員についても、今後の進路指導につなげていく貴重なヒントを得ることができた。

## (2) 総合的な学習の時間 職業人体験学習を通して

A中学校で毎年行われている職業人体験学習では、2年生が3日間各事業所で体験学習を行っている。事業所は保育園や幼稚園、小学校の学校関係から、飲食店、販売店、理美容店、障害者施設、土木関係など多岐にわたる。総合的な学習の時間を通して、生徒自身が事前相談のアポイントメントを取ったり、当日までの準備をしたりする中で将来「はたらく」ということについて考える機会としている。今年度は特に、『人は何のためにはたらくのだろう?』というテーマを掲げ、現場で勤務している人を身近で触れ経験や事業所で実際にはたらく体験をして感じたことや思ったことをもとにテーマについての自分の考えをまとめさせた。

事業所ではたらく生徒の姿は、普段学校で見せる顔つき以上の真剣さで取り組むことができた。与えられた仕事を単に行うだけでなく、働く大人の姿からも学ぶことが多かったようである。生徒からは、実際の現場では、思った以上に大変なおもいをして働いているということが分かった、将来こんな仕事に就いてみたいので今後いっそう学校の勉強に励んでいきたいという感想があった。貴重な体験をさせていただいた事業の方々に感謝するとともに、今後の生徒の飛躍に期待したいと思う瞬間であった。将来を考える一助となったことは間違いない。



## (3) 実践を振り返って

職業人体験学習が単発にならないようA中学校では、1年時より身近な人の職業調べや電話のかけ方講座、マナー講座、働く大人へのインタビューなどを通して職業に関心を持たせる機会を設けている。3年時に行う具体的な進学先名をもとにした進路指導だけでなく、このような系統的な学習を通して、将来よりよい進路選択ができるよう生徒の育成をいてきたい。